

## これから1年は外債投資の注目局面か？

昨年の「解散」「総選挙」で、5年以上にわたって続いてきた円高ドル安基調が転換した。当初は「1ドル=95円辺りまでだろう」などとも予想されていたが、その水準では止まらず、今年5月には1ドル=100円台を回復している。実に4年ぶりである。

その後、ドル安方向の動きが出たものの、再び円高ドル安基調に戻る気配は、いままでのところ見られない。そうした状況を反映してか、円安ドル高基調を意識したマネー関連情報も増えているようである。

円安基調が続くことは、言うまでもなく、外貨建て商品にとってプラス環境である。そうすると、外債投資の好機、とも思いたくるところだが、為替相場の現状を見ると、一概にそうとは言い切れない感がある。もしかすると“チャンス到来”“になるかもしれない外債もあれば、「これに今手を出すのはまずいのではないか」という外債もある。同じ「外債」に括られる投資対象でも、かなり事情が違っているのである。

外債については、昨年6月に作成したCD-ROM書籍「【金利が魅力は確かだが…】これが外債投資の現実だったりする」で、債券そのものの基礎知識や、外債の仕組み、投資のポイントなどを紹介した。言わば、教科書的な内容だったわけだが、いま、それを実践に活かせる状況になっているの

ではないかと感じている。

そこで、前作の内容をいまの市場環境の中でどう活かすか、活かすためのポイントは何かを具体的に考察してみようと、「続編」を作成した。前作と重複する部分も多少あるが、「解散」「総選挙」以降から直近までの為替や金利を取り巻く環境、それらを勘案するとどんな展開が予想され、実際にどのような投資行動が有効と考えられるのかなど、“いま”に則した内容を中心にまとめている。

これからの1年、外債、あるいは高金利通貨で運用する投資信託にとって、プラス・マイナス両面において注目したい時期になる可能性がある、というのが本書の方向性である。外債投資、そして中長期的な資産運用に、是非本書をご活用いただきたい。

2013年10月

有限会社なでしこインベストメント